

6月は「環境月間」、6月3日は環境の日です みんなで守ろう！ 葉山の大切な自然環境

新たに里山保全事業がスタート、アライグマ対策なども進めています

地球の温暖化など、世界的規模で環境問題が深刻になっています。一方、葉山に目を向けると、昔から守り継がれてきた貴重な里山に葛（くず）がはびこり、荒廃の危機が忍び寄っています。また、アライグマなど特定外来生物による農作物等への被害が増え、生態系への影響も心配されています。

こうした状況を踏まえ、町では環境対策に積極的に取り組んでいます。六月の「環境月間」にちなみ、そうした取り組みの一部を紹介します。

「里山保全事業」

緑豊かな葉山。とりわけ里山は、先人たちから受け継いだ『緑の宝庫』であり、次の世代に継承していかねばいけない貴重な自然環境です。

ところが、この里山に異変が生じ始めています。葛がはびこり、そのツタが樹木に巻きついて、緑を痛めつけています。葛は繁殖力が大変強く、このまま放置しておくと、里山が荒廃してしまう危険性があります。

そこで、町では本年度から新たに「里山保全事業」をスタートさせました。

この事業は平成十三年三月に策定した「環境基本計画」に基づき、斜面地と緑地の連携が図られたまちづくりの推進のため、地域住民との協働による山林保全の取り組みと位置づけ、当面は町が所有する緑地を対象に、下草刈りや葛の除去などを行います。

その第一弾として、五月十六日



作業前



作業後



作業前



作業後

(水)には逗葉新道沿いのイトーピア緑地で、町の職員やボランティアの町民など十数人が参加し、実施しました。草刈り機を使って生い茂った下草を刈り取り、樹木に絡みついた葛のツタなどを除去しました。

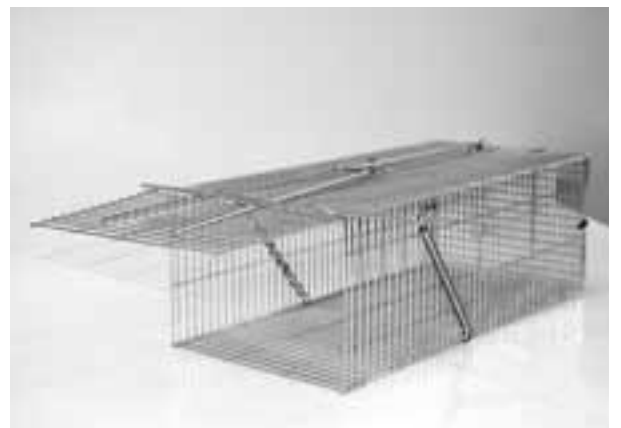
地下にしっかりと根を張る葛は、繁殖力が旺盛で、根絶は容易ではありません。そのため、今年度は夏と秋に同じイトーピア緑地で、里山の保全事業を行い、樹木の成長の妨げになっている葛などの徹底した除去を目指します。

【アライグマ・タイワンリスの被害対策】

葉山を含む三浦半島地域では、アライグマやタイワンリスによる農作物への被害や人家侵入などの生活被害が多発しています。

アライグマなどは、もともとペットとして飼われていたものが、捨てられたり、逃げ出したりして野生化しました。繁殖力が強いことから数を増やし、収穫目前の農作物を食い荒らしたり、人家の屋根裏に侵入したり、あるいは池の鯉を捕食したりと、その被害は年々拡大する一方です。

そこで、アライグマなどを特定外来生物として排除する法律（外来生物法）が施行されたのを受けて、県



▲タイワンリスのオリ

が昨年四月に「アライグマ防除実施計画」を策定しました。この中で、葉山はアライグマが高密度に生息し、徹底した捕獲が必要な「重点対応地域」に指定されました。

このため、町でもアライグマやタイワンリス対策を強化し、被害を少しでも減らそうと、現在、町民に捕獲用のオリの貸し出しを行っています。利用を希望される人は、環境課までご連絡ください。

アライグマは四〜六月ごろが出産期で、子どもを産むために屋根裏などに侵入するケースが多くなります。こうした被害を未然に防ぐためにも、家の回りに餌にならないもの（生ごみなど）を置かないことが

大切です。また庭などで見かけても、餌を与えたりすることは絶対にしないでください。

問合せ 環境課 ☎内線四五三

【低公害車の導入】

世界的に大きな問題になっている地球温暖化は、石油などの化石燃料から発生する二酸化炭素(CO₂)が主因と言われています。

このため、町では公用車の一部を従来のガソリン車から天然ガス車へ切り替えるなど、積極的に低公害化を進めています。

天然ガスは、二酸化炭素をはじめとした不純物の発生が少なく、環境への負荷がほとんどないクリーンエ



▲低公害車の公用車

ネルギーです。町ではこれまでに四台のごみ収集車を含む計十台の天然ガス車を導入しました。今後も低燃費・低排出ガス車の導入など、公用車の低公害化に努めていきたいと思っています。

問合せ 管財課 ☎内線三四二

『クールビズ』がスタートしました。

役場内の冷房温度は二八度に。ご協力をお願いします。

地球温暖化防止の一環として始まった「クールビズ」。その取り組みが今年も六月一日(金)からスタートしました。

役場庁舎内の冷房温度を二八度に設定し、職員も軽装(フーネックタイ、半袖シャツなど)で仕事をしています。町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。なお、期間は九月三日(日)までの四ヶ月間です。

問合せ 総務課 ☎内線三三三

